

テーマ
2

子育てしやすい
まち



- ・学校給食の無償化を願う署名運動に取り組んでいる。地産地消、自校調理を堅持した上で給食の無償化をお願いしたい。
- ・産後には職場復帰したいが、いざというとき頼れるところがない。預ける場所がなく、働きたいけど働けない。
- ・地域児童育成会の入所基準がライフスタイルと合っていない。
- ・子どもたちが屋外で自由に活動できるプレイパークの充実を。
- ・NPO法人が取り組んでいる「放課後遊ぼう会」は、スタッフ確保の問題などから、これ以上日数を増やすのは難しいが、活動をもっと活発化するのが理想。
- ・同世代の人にアンケートをしたところ、子どもの預け先の問題、仕事と子育ての両立が一番の課題だった。次に、遊び場の問題。子どもたちと安全に遊べる場所が近所にほしい。
- ・他市から引っ越してきたが、家族から子育てしにくいまちと言われて残念に思っている。議会がこれからもがんばってほしい。

宝塚市議会 70 周年記念 意見交換会
宝塚をもっと未来へ

4 つのテーマで市民と話しました



「医療と介護の充実したまち」をテーマにした分科会



「にぎわいのあるまち」をテーマにした分科会



「女性が活躍するまち」をテーマにした分科会



「子育てしやすいまち」をテーマにした分科会

令和6年(2024年)11月10日、市議会議事堂で開催した市議会70周年記念意見交換会には、22名の市民の皆さまにご参加いただきました。この意見交換会では、4つのテーマに分かれて市民の皆さまと議員が活発な意見交換を行いました。そこで出された皆さまの声を紹介します。

テーマ
3

医療と介護の
充実した
まち



- ・重度の自閉症の息子とコミュニケーションする方法として指筆談(指談)を覚え、意思疎通ができるようになった。そうすると、急に声を発したりすることが減り、行動も落ち着いた。彼の気持ちと行動の違いも理解できるようになり生活が変わった。このような方法を大勢の方に広めたい。
- ・この方法は援助者が手を添えるので、本人ではなく母親が動かしているのだらうと誤解する方も多くはない。今まで何もできないと思われていたが、自分の思いを発信できるようになり、自分の人生を選択できるようになった。学校現場にも取り入れてもらえるように広めていきたい。

【指筆談(指談)とは】

発話が困難な方とのコミュニケーション手段として、援助者が本人の微妙な手の動きを把握し、紙とペンを使わず本人の指で、相手の手のひらや指先に書く方法を指筆談(指談)と呼びます。

テーマ
4

女性が活躍する
まち



- ・女性活躍というと、女性の起業や経営者の養成支援というイメージを持っていたが、子育て分野に力を入れていくことも、介護離職を防ぐことも女性活躍につながる。そういう目線で見れば、もっとアイデアが出てくるのではないかな。
- ・宝塚市では、女性の流入流出の現状はどうなっているのか。女性の市議が半数以上になって、何が変わったのか。市役所の女性管理職の比率や女性活躍の指標はどうなっているのか。
- ・コロナ禍のときに市は、女性のキャリア支援の事業をやっていたが、打ち切りになってしまったのか。今後の取り組みをどう考えているのか。
- ・女性が活躍できるまちは男性も住みやすく、活躍しやすいまちだと考えている。40代の前半に、勤め先で女性スタッフと議論しながら働いた経験が、自分の男女共同参画元年である。

テーマ
1

にぎわいのある
まち



- ・宝塚市に引っ越してきて1年に満たないが、これからの宝塚市に興味がある。文化芸術やアートは大事。それがまちのにぎわいにつながるかとよい。
- ・市庁舎の市民ホールが生かされていない。議会の様子も、もっと発信を。
- ・アートの力で地域社会に貢献する取り組みをしたいと考えている。
- ・友人に手工芸をされている方がいるが、発表の場を借りるにはお金がかかる。市役所などの施設を自由に使えばよいのだが。
- ・ファミリーランド、宝塚まつり、花火大会が無くなった。歌劇のほかに何かがあるのか。よそに行かなくても過ごせる場所がほしい。
- ・子どもと一緒に食事ができて集える場所を運営して3年。土日は児童館が開いてなくて、子どもと一緒に過ごせる場所がない。
- ・空き店舗はたくさんあるがマッチングが必要。ソーシャルビジネスへの助成を行う市もある。場づくりのサポートに工夫が必要。